平成23年度第8回SPODネットワークコア運営協議会 議事次第

日 時：平成24年1月30日（月）16：00～17：00

場 所：各コア校（遠隔会議システム利用）

議 題：

1. 平成23年度SPOD事業経費の執行について

- ・平成23年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業経費の執行について（案）
【資料1-1】
- ・平成23年度SPOD事業経費支出内訳（案）
【資料1-2】
- ・平成23年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業経費
【参考資料1】
- ・共同事業契約書（平成23年度）
【参考資料2】

2. 平成22年度事業評価委員会委員からの指摘事項に対する対応状況について

- ・平成22年度事業評価委員会委員からの指摘事項に対する対応状況について（案）
【資料2】

3. SPODネットワークコア運営協議会FD/SD専門部会について

- ・平成23年度SPODネットワークコア運営協議会FD専門部会（第2回）議事概要
【資料3-1】
- ・平成23年度SPODネットワークコア運営協議会SD専門部会（第2回）議事概要
【資料3-2】

4. 社会連携職員養成プログラム開発の実施について

- ・SPOD-SDセミナー「社会連携職員養成プログラム開発」実施要項
【資料4】

5. SPOD加盟校内講師派遣事業に関するアンケートの実施について

- ・平成23年度 SPOD講師派遣事業についてのアンケート
【資料5】

平成22年度SPOD事業評価委員会からの指摘事項に対する対応状況について（案）

【すぐに検討が必要な課題】

平成24年1月現在

事項	対応策	実施状況 (◎:実施済み、○:一部実施、×:未実施)	評価委員会からの意見
F _{Der} 、SDC、SD講師の養成	1 平成23年度から、加盟校が主催する研修にコア校のF _{Der} ・SDの講師を派遣する事業を実施する。	◎	【FD・SD共通】 コア校をはじめとして、各大学が対等な立場・責任で、FD・SDの企画・実施を行うような仕組みを検討する必要がある。
	2 拠点の活動の一環として、SPOD外において、F _{Der} を養成するため研修を実施する。	◎	【FD】 各研修プログラムの講師について若手の人材育成はまだ十分とは言えない、SPOD内でのF _{Der} 人材の育成だけではなく、SPOD外をも含めた人材の開拓に力点を置くべきかもしれない。
	3 SPODでの研修生受け入れ制度に加えて、全国教職員能力開発拠点としての研修生受け入れ制度を作る。	○	【FD・SD共通】 コア校以外の大学がフリーライダーにならないようにするための制度設計が必要。
	4 F _{Der} ・SD担当者とした、職場内能力開発の基本的な知識、意義を学ぶための研修を実施する。	◎	【FD・SD共通】 SPOD事業への教職員の参加を促すために、FD・SDのための各加盟校の職能開発の考え方や環境作りを支援する方策を検討する。
	5 SDプログラムの内製化を行い、講師養成研修受講者が学務系職員養成研修の講師となって研修を実施する。	◎	【SD】 能力向上は何のためなのか。この点を、各大学の人事政策担当の理事・職員、SDプログラムの開発・実施に関わる教職員などが明確に自覚することが、SD受講に対する動機を高めるうえで必要ではないか。
	6 SDプログラムの内製化を行い、講師養成研修受講者が学務系職員養成研修の講師となって研修を実施する。	◎	【SD】 SDプログラムの開発に予算の多くがつかぎ込まれており、早期に効果を示すことが求められている。プログラムの内製化を早急に実現し、低予算での事業継続を実現して欲しい。
	7 日本高等教育開発協会と連携し、高等教育教授資格の開発を進める。	○	【SD】 「学務系職員養成プログラム」の講師育成を急ぎ、大学特有の業務領域における人材養成のあり方を検証 【組織運営等】 四国内の各県の新聞やテレビ等のマスコミを積極的に活用して、四国内での認知度を上げられればどうでしょうか。 【FD】 英国PGCHEプログラムに比肩しうる日本版プログラム(SPOD四国モデル)の完成に期待
SPOD事業の取組成果の情報発信	SPODフォーラム等の大きなイベント開催時には、SPODの取組をマスコミ等に積極的に発信する。	○	【組織運営等】 四国内の各県の新聞やテレビ等のマスコミを積極的に活用して、四国内での認知度を上げられればどうでしょうか。
教員の資格化について	日本高等教育開発協会と連携し、高等教育教授資格の開発を進める。	○	【FD】 英国PGCHEプログラムに比肩しうる日本版プログラム(SPOD四国モデル)の完成に期待

事項	対応策	実施状況(◎:実施済み、○:一部実施、×:未実施)	評価委員からの意見
8	現状の汎用的内容のプログラム実施を継続するが、医療系ならびに高専系については、専門分野別プログラムの開発に取り組み体制づくりを行う(SPODフォーラム2011)において両プログラムを開講予定)。 その他の専門分野別プログラムの開発については、SPOD加盟校FDニーズアンケート調査結果を参考に、ニーズの高い分野から検討を行う。	◎	【FD】 医療系が充実その分野で伝統のある徳島大で医療系系のブレFDが発展すれば、SPODの特色となり魅力となるのかもしれない。 【FD】 分野別・学体系別のFDプログラムの開発は未知数であり、現時点で評価を下すのは難しい。今後の進展が期待される。
9	トッリーダーや各種プログラムで実施したアンケートを活用し、今後のプログラム改善につなげていく。	◎	【SD】 トッリーダー養成について、加盟校の意見を聴取しながら、実情に合わせた位置付けや仕組みを検討する。 【SD】 トッリーダー(アカデミックリーダー)に関するプログラムについて、実施上の困難があった。今後、これまでも異なるアプローチの仕方を検討しなければならぬ。 【SD】 職員組織のマネジメント能力に加えて、大学を動かすための対教員マネジメント・スキルを重点にしたプログラム開発と改善が待たれる。
10	遠隔配信やeラーニングによるプログラムの有効性を検証し、職場においても学習しやすい環境作りを整備する。	○	【FD】 SPODフォーラムや各コア校で実施されるFDプログラムへの、加盟校教員の参加がまだ少ないように思われる。フォーラム等への参加が容易になるような仕組みづくりができるよう加盟校に働きかけていくことも、FDの環境作りという点で必要ではないか。 【組織運営等】 職員組織のマネジメント能力に加えて、大学を動かすための対教員マネジメント・スキルを重点にしたプログラム開発と改善が待たれる。
11	事業の継続を目指して、加盟校が負担金を拠出する仕組み作りを行う。	◎	【組織運営等】 小さな財政で制度設計を組み直す必要がある。 【組織運営等】 採択事業終了後の活動を支える財源的な保証が十分ではない。
12	加盟校間の交流を活発にするため、各コア校を中心に県内加盟校会議等の実施を促す。	○	【組織運営等】 SPODの一体感に比べて、県内加盟校との交流が十分に図れなかった点があり、自戒もこめて今後の課題である。
13	SPODフォーラム2011において、加盟校の担当者が少人数によるグループディスカッションを通じた情報交換ができる機会(ラウンドテーブル)を設ける。	◎	【FD】 加盟校のFD担当者との情報交換の機会が少なかった。フォーラム等で担当者交流を図る努力はしてきたが、十分な時間がとれなかったように思われる。フォーラムで1コマをこれに充てる、といった新たな試みも必要かと思われる。 【SD】 職員のキャリアデザインに関する基本的な考え方について、加盟校間で情報交換する機会が必要かと思われる。 【組織運営等】 ネットワーク内のミニ・ネットワークの組織化も含め、温度差を解消する積極的なアプローチが必要になるかもしれない。

【長期的に検討すべき課題】

評価委員からの意見	理由
<p>【SD】 各コア校がある分野ではリーダーシップを発揮できるようなかたちにしていかねばならない。</p>	<p>各コア校がリーダーシップを発揮していくことが、持続的な運営のためには不可欠である。しかしながらそれを実現するには、人的措置など実施体制の整備が不可欠であるため、事業の整理・見直しの検討を含め解決には時間を要する。</p>
<p>【組織運営等】 地域の自治体・行政組織とも連携を深め、活動継続の支援要請を積極的に展開してはどうか。</p>	<p>SPODの今後の持続的な運営を考えた場合、自治体等との連携・支援を得ることは有用である。それを得るための方策としては、自治体職員や公立学校教員向けの研修プログラムを開発・実施していくことも一つのアイデアであるが、実現に向けてはニーズ調査、人的資源を含めて検討課題が多く時間を要する。</p>
<p>【組織運営等】 SPODによる地域の発展・活性化のためには、県知事や市町村長を巻き込んでいく必要があり、そうすることによって、SPODの地域の認知度や評価は上がっていく、小・中・高等学校を巻き込んだ教育力の向上に寄与することができるのではないかと。</p>	<p>「スタッフ・ポートフォリオ」「キャリア・アップサポート」については、導入から実施まで組織としてベクトルを一致させる必要がある。愛媛大学での導入の効果を検証した上で、他大学において導入に向けて検討する必要があるが、従来の人事制度を変革していくには時間を要する。</p>
<p>【SD】 SDの3本柱となる「職員研修プログラム」「スタッフ・ポートフォリオ」「キャリア・アップサポート」のうち、「職員研修プログラム」領域の成果に比べ、他の2つの領域は試行中とはいえ、活動実績の具体像が見えにくいものになっている。</p>	<p>「スタッフ・ポートフォリオ」「キャリア・アップサポート」については、導入から実施まで組織としてベクトルを一致させる必要がある。愛媛大学での導入の効果を検証した上で、他大学において導入に向けて検討する必要があるが、従来の人事制度を變革していくには時間を要する。</p>

【対応済の課題】

評価委員からの意見	理由
<p>【FD】 スタッフの派遣や活動成果の検証等で生じるコア校の負担をどう克服するのか、この規模の大学・学校に籍をおく特定個人との連携ではなく、組織体としての連携を強化するには何が有効なのか、その方策が明らかではない。</p>	<p>昨年度末にSPODネットワーク規約を改正し、コア校が会長、副会長を担当し、加盟校から監事を選出するなど、規約の整備を行い、加盟校間の組織的連携の強化を図り、負担を平準化した現実的な体制を構築している。</p>
<p>【FD・SD共通】 SPODによる取組と、全国拠点としての取組をどう関連づけるかは、重要な課題と思われる。</p>	<p>SPODネットワークコア運営協議会、教職員能力開発拠点共同利用運営委員会において明確に事業の仕分けが行われている。</p>
<p>【FD・SD共通】 SPOD事業と共同利用拠点事業との仕分け</p>	
<p>【組織運営等】 3年間に亘る連携事業運営のノウハウをどのように継承し、共有化(記録化、資格化等)するかが課題である。</p>	<p>3年間の活動状況の記録は、活動報告書に記載しており、SPOD関係者で共有している。有効活用の方策を考えたい。</p>
<p>【FD・SD共通】 SPOD事業の取組成果だけでなく、ネガティブな面についても敢えて発信することも必要である。</p>	<p>活動報告書では、3年間の全体総括において、事業の成果だけでなく、達成出来なかった点、今後の改善事項等を記載している。</p>
<p>【SD】 SDを受講することによってどのような能力が、いかに向上したか(しなかったか)を測定すること</p>	<p>SDについては、あらかじめ定められた到達目標に対して、受講前と受講後の到達レベルを検証している。</p>
<p>【SD】 何のためにSDを行うのか、目的がやや不鮮明な印象を受ける。</p>	<p>SPODでは、独自にSPOD－SDの定義を定め、SDの目的、意義を明確にしている。</p>
<p>【組織運営等】 他の地域連携ネットワーク(例えば大学コンソーシアム京都)等と各々の持ち味を活かしつつ、相互補完的な提携関係を構築していただくことを提案します。</p>	<p>FDネットワーク代表者会議や他の共同利用拠点(東北、名古屋)との意見交換等を通じて、FD・SDに関する情報収集を行うなど、他の地域ネットワークと連携している。</p>

【対応困難な課題】

評価委員からの意見	理由
<p>【SD】 SD研修プログラムに参加した職員に対するインセンティブがつけにくいといわれているが、昇給や昇任を含めた待遇面について各加盟校での前向きな検討が望まれる。</p>	<p>職員へのインセンティブは各加盟校で定めるべきものであるため、SPODとして一律に定めることは困難である。すでに一部の大学では、SD研修受講が昇任の条件としていくところがある。</p>

平成23年度SPODネットワークコア運営協議会FD専門部会（第2回）議事概要

日 時：平成23年12月16日（金）15：00～17：00

場 所：愛媛大学城北キャンパス愛大ミュージズ3階ミーティングルーム

出席者：徳島大学 吉田助教

香川大学 葛城准教授

高知大学 塩崎教授

愛媛大学 佐藤准教授，山田准教授，渡邊教育企画課長

陪席者：愛媛大学 大竹特任助教，長野教育企画課教育企画チームリーダー，渡部教育企画課員

議 題：

1. 組織開発に関する共同事業について

山田准教授から、資料に基づき、「調査・研究プロジェクト」設置の目的及び実施方法について説明があった。続いて、教育効果・組織変容の具体的な調査・検証方法について意見交換を行った。今後は、共通の学生調査、新任教員調査、機関調査の実施に向けて、調査内容等をコア校間で協議し、平成24年3月に開催されるSPODネットワーク総会で「調査・研究プロジェクト」の設置について報告を行い、各加盟校の教職員の参加及び調査への協力を依頼することとなった。

2. その他

部会長から、遠隔配信専用プログラムである「SPODチャンネル（仮）」の実施について説明があった。続いて、提供するプログラム案、実施方法等について、意見交換を行った。意見交換の中で、e-learningなど他のコンテンツの利用や、対面型の講義後のフォローアップに遠隔会議システムを利用する案など、これまでの遠隔講義の形式にとらわれない様々な意見が出され、今後も引き続き検討することとなった。

平成23年度SPODネットワークコア運営協議会SD専門部会(第2回) 議事概要

日 時:平成23年12月16日(金)15:00~16:00

場 所:愛媛大学城北キャンパス愛大ミュージアム3階会議室

出席者:徳島大学 坂東学務部教育支援課長

香川大学 森田給与福利グループリーダー

高知大学 近田人事課長, 中澤人事課人事グループ主任

愛媛大学 秦教授、吉田人事課長

陪席者:愛媛大学 高知大学 井上学務課総合教育センター事務係長

山内教育企画課員, 岸岡教育企画課員, 戸田教育企画課員、

野本人事課人材育成チームサブリーダー, 神谷人事課員

議題等:

1. 次世代リーダー養成研修修了要件(全日程の9割以上出席)の取り扱いについて

吉田人事課長から資料1-1~1-2に基づき, 修了要件(全日程の9割以上出席)を満たさない場合の取り扱いについて説明があった。9割の基礎を時間数にすることについて質問があり, 秦教授から時間数9割を満たした上で, 2年間の研修最終回において修了プロジェクトレポート提出・発表及び口頭試問を行うとともに, すべてのプログラムについてA~Dの4段階で評価し総合的に修了判定を行う旨説明があり, 了承された。

2. 次世代リーダー養成研修修了判定について

議題1の秦教授の説明に基づき了承された。

3. 次世代リーダー養成研修実施要項について

吉田人事課長から資料2に基づき説明があり, 文書について200文字程度を400字以内とすることで, 了承された。

4. 大学人、社会人としての基礎力養成プログラムの区分別開講について

吉田人事課長から資料3に基づき, レベル2「情報科学応用論」について区分別開講とすること, 情報科学については, 受講生の職務のレベルにかかわらず情報科学に関するスキルに応じて受講できるものとした旨説明があり, 了承された。

また情報科学に関するプログラムについては, 実施要項にソフトのバージョンを記載することを確認した。

5. 大学人、社会人としての基礎力養成プログラムをSPOD内講師が担当する場合の時間数について

吉田人事課長から資料3に基づき, 1単位90分を目安としているところ最大180分まで要すること, その場合募集要項に明記して実施することについて説明があり, 了承された。

レベル1について SPOD 内講師からの提案によりプログラム追加が可能であることを確認した。

6. 大学人、社会人としての基礎力養成プログラム（レベル1）のSPOD内講師養成について

吉田人事課長から SPOD 内講師養成について、SDC が年1回コア校を訪問して指導する旨の説明があった。また所属機関及びコア校のFD及びSD担当者に講師の指導・育成に協力していただくよう依頼があった。

7. その他

秦教授から SPOD チャンネルでSDプログラムを開講するとした場合の開講時間・配信方法について説明があり、意見交換を行った。

SPOD-SD セミナー「社会連携職員養成プログラム開発」実施要項

1. 目的

今後のSPOD—SDプログラムの開発・実施を円滑に進めるため、ネットワーク加盟校間における連帯感を高めるとともに、基本的なSDプログラム開発の手法を学び、社会連携職員養成プログラムを開発することを目的とする。

2. 対象者

- ① 社会連携系職員
- ② 各ネットワーク加盟校SD担当者
- ③ 意欲のある事務職員

3. 期間：平成24年2月17日（金）・18日（土）

4. 日程：別紙のとおり

5. 場所：「新居浜ホテルマックスビジョン」

〒792-0026 愛媛県新居浜市久保田町1-7-7

電話：0897-33-1000

URL：<http://www.hotelmaxvision.co.jp/index.htm>

6. 旅費

愛媛大学の旅費規則に準じて支給します。

7. 担当講師

愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 教授 秦 敬治

愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 助教 仲道 雅輝

愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 特任助教 大竹 奈津子

愛媛大学 教育学生支援部 次長 米澤慎二

愛媛大学 総務部人事課 副課長 秋谷恵子

8. 募集定員：20名

9. 主催

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD），協力校：愛媛大学

社会連携系職員養成プログラム開発作業日程

会場：新居浜ホテルマックスビジョン

時間	(1日目) 2月17日 (金)	(2日目) 2月18日 (土)
9:00		
9:30		「前日のグループ討議の発表」
10:00		講師：秦・仲道・大竹・米澤
11:00		「グループ活動」 社会連携系職員を養成するためのプログラムにおけるマップ作成 講師：秦・仲道・大竹・米澤
12:00	受 付 オリエンテーション	
12:30		昼食
13:00	「講話」 講師：愛媛大学社会連携推進機構 副機構長 土居 修身	「グループ活動」 社会連携系職員を養成するためのプログラムにおけるマップ作成 講師：秦・仲道・大竹・米澤
14:00	「アイスブレーキング」 (自己紹介, 所属大学等の紹介)	
15:00	「SDプログラム開発事業の概要・作成手法について」 愛媛大学総務部人事課副課長 秋谷恵子	「グループ活動の発表・ まとめ, 今後のSDプログラム開発の進め方」 講師：秦・仲道・大竹・米澤
15:30	「グループ討議」 ①各大学・短大・高専を取り巻く 社会連携系の現状・問題点について ②各大学・短大・高専が求める社会連携系の 職員像(資質と能力)について 講師：秦・仲道・大竹・米澤	
17:30		
19:00	懇親会	

(注) 都合により、時間を変更する場合があります。

平成23年度 SPOD講師派遣事業についてのアンケート

記入者名：_____ ※担当に○をつけて下さい。：FD・SD・事務

SPOD講師派遣事業についてお尋ねします。

1. a) 研修プログラムへの参加者は全員で何名でしたか？ () 名
うち、教員：() 名 職員：() 名 その他：() 名
b) a)でお尋ねした全参加者のうち、学外からの参加者は何名でしたか？ () 名
うち、教員：() 名 職員：() 名 その他：() 名

2. SPOD講師派遣事業を来年も継続したらいいと思いますか？ 番号 ()

④ そう思う ③ どちらかといえばそう思う ② どちらかといえばそう思わない ① そう思わない

3. SPOD講師派遣事業により、学内でどのような成果や変化がありましたか？
例)FD委員会が設置された、職員による定期的な勉強会が始まった...など。

4. SPOD講師派遣事業への要望があれば、具体的にお書き下さい。

5. SPOD全体への要望があれば、具体的にお書き下さい。